

- ① 物流関係サービスのご紹介
- ② **WEB討論会前半**（物流を俯瞰されてきた関係者による討論）
- ③ WEB討論会後半（物流関係者による討論）
- ④ 4月以降のオンライン説明会について

物流の現状・課題についてどのように感じていますか。

物流業界にとって最大の課題は労働力の確保だと感じます。顕著なのが特定技能外国人ドライバーの採用で、地方の中堅や中小の運送会社でも活発化しています。一方、中小といっても地方の有力に限られ、外国人ドライバーの採用面でも企業間の格差が広がっています。

「誰が」、「何を」するべきだと思いますか。

国には、トラック適正化2法といった新たな規制を守らない者に対して、厳正に対応できる体制を築いていただきたいです。

物流の現状・課題についてどのように感じていますか。

いま物流の現場は何が課題となっているのかが見えづらくなっているのが問題だと感じています。

「誰が」、「何を」するべきだと思いますか。

いまの課題をどこに設定し、それを解決するためには「誰が」「何を」すべきか。

課題を細かく設定する必要があるように感じています。

物流の現状・課題についてどのように感じていますか。

国の支援や関係機関、運送事業者の努力によって、多様な課題が改善されている部分がある一方で、業界に対するイメージは未だ回復していないように感じます。

「誰が」、「何を」するべきだと思いますか。

物流を題材にしたエンターテインメントや映像作品ができると、注目を集めると思います。

物流の現状・課題についてどのように感じていますか。

物流の課題解決には、荷主企業の協力が不可欠であり、発荷主・着荷主・運送会社の3社の連携が必要

「誰が」、「何を」するべきだと思いますか。

生々しい本音を荷主と運送会社が話せる場（事件は現場で起きている！みんなで愚痴ろう的なゆるい場）が必要かと思う。

## 物流の現状・課題についてどのように感じていますか。

取材を続けていて感じるのは、「何が問題か」は業界全体でとっくに共有されているのに、なぜか動かない、という息苦しさです。

標準的運賃も、Gメンも、制度としては着実に積み上がってきました。4月にはCLOの義務化も控えています。ところが現場では「制度に対応した形を整える」ことが自己目的化し、本来めざすべき運賃水準の是正や働き方の改善が後回しになっています。書類は整っているが実態は変わっていない、という状況を何度も目にしてきました。

根っこにあるのは、物流を「削れるコスト」として扱い続けてきた日本企業の経営感覚だと思います。そこを変えないまま制度だけ重ねても、現場の疲弊は続くでしょう。

**「誰が」、「何を」するべきだと思いますか。**

荷主企業の経営トップが、自分ごととして物流コストを議論するようにならないければ、現場レベルの努力は空回りします。担当者がいくら理解していても、「コスト削減」という経営指標が上から降りてくる限り、値下げ交渉の慣性は止まりにくい。

国交省には、荷主の不当な行為を「元請け・下請け構造の適正化」という観点から継続的に監視・公表する役割を強化してほしいと思います。独禁法上の優越的地位の濫用については公取委との連携を深め、悪質事例が実態として業界に伝わる仕組みをつくっていただきたい。